

「日本一前向き！」コンソーシアム設立総会 概要

日 時：令和2年2月20日（木） 午後6時～午後7時

場 所：四條畷市立グリーンホール田原1階 なるなるホール

出席者：【コンソーシアム参画団体】田原地域子育てサロン カンガルーホップ、わたしのいえ・ほっこり、(株)アカカベ、(株)ウフル、NEC ソリューションイノベータ(株)、関西電力(株)、近鉄ケーブルネットワーク(株)、(株)グリーンファーム、ソフトバンク(株)、(大)奈良先端科学技術大学院大学、YuMake(同)、(医)和幸会、四條畷市

【オブザーバー】区長・自治会長、土地改良区、田原ライフセーバーズ、田原台・さつきヶ丘地区福祉委員会、四條畷市公園・緑地等里親会、四條畷市社会福祉協議会、元田原活性化対策本部委員、奈良交通(株)、内外電機(株)、総務省近畿総合通信局、経済産業省近畿経済産業局、国土交通省近畿地方整備局、大阪府スマートシティ戦略準備室、(国研)情報通信研究機構、(独)都市再生機構

【傍聴】市民等

合計80人

議 事：(1) 座長選出

(2) 本市の取り組み状況及び今後の活動方針

市 長： みなさんこんばんは。大変お忙しい中、多くの方にご参加頂きまして誠にありがとうございます。この「日本一前向き！」コンソーシアムという名前は担当職員が命名しましたが、思い切った名前を付けたなあと思いました。どういう意図で付けたかと言いますと。

ドラえものの秘密道具で糸なし糸電話という道具ご存知でしょうか。どのようなものかという、紙コップを耳に当てると、糸がなくても離れた場所で通話できる。我々は現在、携帯電話を当たり前に使っていて、秘密道具は秘密道具でなくなっています。そういったものは沢山あると思います。先日も大阪府では2025年にはドローンでタクシーのように移動する未来を実現する。これは完全にタケコプターのようなものが5年後ぐらいにはできているのかと感じています。今まで秘

密道具の位置づけにあったものが、一つ一つが実現してきていまるのが現状かと思います。

この田原地域は約 9,000 人の方が住んでいますが、地域を良くしようと思って活動して頂いている方が沢山います。子どもの見守りであったり、高齢者の方々の福祉の関係であったり、例を挙げていくときがありません。良いところも沢山ありますけども解決していかないといけない課題もたくさんあります。平成 29 年度から市民公募の皆さんとともに田原地域をどういう風にしていけばより良くなっていくんだろうと何回も何回も議論を重ね、いくつか目指していけたら良いなという未来像を住民の皆さんと一緒に考えてきました。その未来像に対して、行政ができることは何か。行政はイノベーションを起こせるわけでもないですし、豊かなお金があるわけでもないです。だからこそ今日ご参画いただいた企業の皆様とともに知恵をたくさん出し合って、住民の皆さんが思い描くまちづくりを実現していきたい、その一つの手段としてスマートシティがあると思っています。それを進めていくための枠組みが「日本一前向き！」コンソーシアムです。

今日は国土交通省、経済産業省、総務省をはじめ大阪府のスマートシティ準備室の方にもお越しいただいております。また、多くの企業の方にもご参画いただいております。本日の設立総会ですけども、皆さんの持っている力、知恵をお貸しいただきつつ四條畷市、田原地域が目指していく未来に向かって、どうかみなさまの力を合わせてより良い未来を描いていきたい。その上で、新しい技術、今まで世の中になかった技術を使っていけたらと思います。何卒よろしくお願い申し上げますとともに、本日オブザーバーとしてお越しいただきました、区長自治会長の皆様にもお礼を申し上げまして、私からの挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

事務局： ありがとうございます。それでは、本日ご出席のコンソーシアムにご賛同いただいた企業及び団体について、ご紹介します。

株式会社 アカカベ さま
株式会社グリーンファーム さま
医療法人 和幸会 さま

株式会社 ウフル さま
NECソリューションイノベータ 株式会社 さま
関西電力 株式会社 さま
近鉄ケーブルネットワーク株式会社 さま
国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学 さま
YuMake 合同会社 さま
ソフトバンク 株式会社 さま
そして最後に私ども四條畷市です。

次にオブザーバーとしてご出席いただいている方をご紹介します。

区長、自治会長 さま、
国土交通省 さま
経済産業省 さま
総務省 さま
大阪府 さま
独立行政法人 都市再生機構 さま
国立研究開発法人 情報通信研究機構 さま
奈良交通 株式会社 さま
内外電気株式会社 さま

事務局： それでは、座長を決定するまでの間、事務局の方で進行いたします。
議事第一号座長選任の件について、本運営につきましては運営会則第十条第一項および第二項にまたぎ、座長を1名または1法人を置き、互選により選任するとされています。
コンソーシアムの中で、立候補もしくは推薦をされる方はいらっしゃいますでしょうか。

NECソリューションイノベータ： コンソーシアムについては四條畷市が主導し設立された経緯から、市の方でお願いできないでしょうか。

事務局： ただいま会員の方から四條畷市を座長に推薦する意見がありました。他にご意見がございますでしょうか。
ないようですので、採決に移ります。四條畷市を座長とすることに賛成の方は挙手願います。

(参加者挙手)

事務局： 全会一致により可決されました。ここで議事進行を座長に交代するため暫時休憩といたします。

(暫時休憩)

座長： 座長とさせていただきます四條畷市を代表いたしまして、市長である私が会議を進めさせていただきます。私が公務で都合がつかないときは、田原支所長が代わりに務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事第2号、本市の取り組み状況及び今後の活動方針について説明します。まず初めに四條畷市のICTを活用した取り組みと今後の方針についてICT推進担当の川上上席主幹、そして田原地区のスマートシティの取り組みについて笹田支所長から説明をさせていただきます。

大阪府四條畷市におけるICT・IoTを活用した

スマートシティ推進に向けた取り組み

(人事室ICT推進担当)

川上： ICT担当の川上です。よろしくお願いいたします。本日は貴重なお時間をいただきまして、本市におけるICT, IoTの取り組みについて簡単に紹介をさせていただきます。四條畷市は、人口約55,000人、大阪府内の32市中32番目であり人口は少なく財政力指数も低いものの都心部へのアクセスが良い住宅都市として知られています。四條畷市の情報担当は平成30年度の調査で1人と非常に少ない職員数の中でも、様々な取り組みを行っています。

では、これまでの取り組みについて紹介していきます。現場の職員の声や企業からご提案をいただきながら社会実験を経て実行しております。例えば日本一受験しやすい環境をつくりたいという意見や、窓口の手数料をキャッシュレスで支払いできたら便利ではないですかという声がありました。そういった声を反映し、実現しております。

まず一点目は、オンラインによる住民票の写しの請求サービスです。窓口に来ていただいたり郵送で取得する方法がありますが、時間や手間がかかる状況でした。市のHPからアクセスし、電子申請をすることで、比較的スムーズに住民票の写しを取得できるようになりました。窓口における手数料をQRコードを用いて、窓口で現金を扱うことなく手数料をお支払いいただける環境を構築しております。

LINE を用いたまちづくりです。道路にひびや陥没があるという場合、これまでは電話や直接来庁いただいて情報を確認しておりましたが、LINE を活用し、写真や位置情報を送信していただくことで、これまでよりも気軽に道路の損傷情報を送っていただくことができるようになりました。

続いて職員採用におけるオンライン面接についてです。こちらは全国の自治体で初の取り組みです。これまでは、遠方からの応募者や子育て中の応募者の方など来庁して面接を受けることが難しい方が多くおられ、辞退される方もいました。テレビ電話による Web 面接を活用することで遠方、子育て中でも自宅やオフィス等から受験可能になりました。H29 年度と H30 年度の比較では約 10 倍応募者が増えたという結果がでました。

最後に、子どもの安全をしっかりと守りたいという保護者の方々の声を受けまして、関西電力（株）さんの方から事業提案をいただき、IoT 技術を活用した子どもの見守りサービスを実施しています。社会実験後のアンケートを行った結果、9 割以上の方が市の事業として事業化してほしいという要望がありましたので、市の事業として取り組んでいます。これらが四條畷市として ICT、IoT を活用して取り組んでいる事業です。企業の皆様の力を借りながら、住民の方の声を反映していく形で実現できたものだと感じています。

続きまして、今後の本市の方向性を説明させていただきます。子育て、防災、教育、交通とあります。子育てについては、保育施設等入所事業としまして、保育施設等の入所作業において保護者の方から申請を頂いてからの選考業務を担っておりますが、非常に時間がかかるという課題がありました。この課題を解決するため、AI を用いた入所選考システムを導入しております。来年度以降は申請の部分も電子でできるよう検討しています。これによって、8 割以上の業務時間を削減できるという試算があります。総務省の地域 IoT の実装推進事業の補助金交付対象として採択されました。今後は、業務時間の削減も含め、保護者の方の申請の利便性の向上を目指して取り組んでまいりたいと思っています。

続きまして防災、平成 30 年には大阪北部地震を本市も経験しました。被害が大きかったこともあり、職員が情報を入手することや、入手した情報を市民の方に伝えるという点で課題が残りました。WebGIS を活用した災害情報システムを導入することで、職員間の情報の共有やその情報を市民の方にどのような形でいかに迅速に伝達できるかという

ことを考えています。

3点目、ICTを活用した校務の効率化。昨年度、田原小学校、田原中学校にシステムを導入しまして教員の働き方をICTを活用して後押しするということを先行で行ったところ、85%程度業務時間を軽減できる結果が出ました。児童、生徒と向き合う時間を確保することができるとともに、教員の働き方改革をICTで加速させていく取り組みを考えています。

最後に、交通です。まずは西部地区からになりますが、デマンドタクシーを活用して、バスで行けなかった場所も運行できるような形を想定しています。

こういった形で、ICTやIoTの技術を活用しながら日本一前向きな市役所を目指して取り組んで参りたいと思っています。私の方からは以上です。

本市の取り組み状況及び今後の活動方針

(田原地区スマートシティ推進担当参事)

笹田： 続きまして、「日本一前向き！」コンソーシアムのこれまでの経過と方針についてご説明させていただきます。平成29年度に、地域ボランティア団体、企業、区長、自治会長等の協力を経て田原活性化対策本部を発足しました。対策本部会議では、田原地区にどのような課題があり、どのように解決していくかを議論してまいりました。

議題にあがった課題の1つは交通・モビリティ分野です。西部地域と東部地域を結ぶコミュニティバスについては運行経費が約6千万円、令和2年度見込みでは1億3千万円の予算措置をしております。

2つめは物流です。田原地域にはサンパルコ田原という商業地域があります。以前はスーパーマーケットが入っていましたが、現在はアカカベ薬局さんが入っていただき、日用品や生鮮食品を販売していただき感謝しております。しかしながら、もう少し便利になって欲しいという声をいただいているのが現状です。

3つめが、健康・医療です。田原地域は山を切り開いてできた地域のため高低差が多く、車で移動される方が多いです。車での移動が多くなると運動量が低下するため、健康・医療の分野において課題として挙がりました。

最後に農業です。上田原地区、下田原地区は非常に美しい田園風景が残る地域でもあります。しかしながら、農業の担い手が減少しており、耕作地が遊休農地に変わり、雑草が生えてくるという問題もあります。

最近では、田原地域でもイノシシが出てくることもあり、農業についての課題が出てきました。

田原活性化対策本部ではこれらの課題について議論を重ねてまいりました。グループディスカッションや先進地域の視察に行くなど、地域と行政の役割分担をしました。地域については地域の賑わい創出や魅力を発出することについて地域の皆様にお願ひし、行政としては田原地域をより便利にするという観点からスマートシティ推進を掲げ、地域と行政が協力することで田原地域をより魅力的にしたいと考えております。

ここで、元田原活性化対策本部委員のメンバーを紹介させていただきます。まずは、「配食サービス、レストラン運営」についての紹介を内藤様にお願ひします。

内 藤： 私は民生委員をしておりまして、生まれてからなんとかするよりも生まれる前から準備をしておくことが大事だと感じております。高齢者の見守りをしていると、待っていてくれるんですよ。よく来てくれはりましたと。一か月に一度あなたと会えると思ったら楽しみだと。誰かと繋がっていることが自己肯定感を高めてくれる。それから引きこもりの方は出かけても面白いこともない、誰ともつながらない。そんなことを私も時々思います。でもこのような自分を発揮できる場を与えていただいている、それだけで素晴らしいことだと思います。みんながそれぞれ、互いに会話できる関係をつくるのが大事じゃないかなと思います。以上です。

笹 田： 内藤様ありがとうございます。そのような思いから、配食サービス、レストラン運営をしてはどうかという提案をいただいております。続いて、「緑豊かな田原を楽しむ」についての紹介を中西様お願ひできますでしょうか。

中 西： 私たちは田原の豊かな自然、歴史を楽しみながら田原の活性化を図っていこうということで田原活性化対策本部のメンバーを中心に立ち上がった団体です。田原の自然と言いましても、ナラ枯れに代表されるような里山の荒廃が急速に進んでおります。田んぼや畑は後継者不足による遊休農地が増えています。そのような大きな課題に取り組むにはあまりに非力ではありますが、何かしてみようということで、ナラの木にシイタケの榎木を植えこみ秋の収穫を待っているところです。それから、遊休農地を活用し、さつまいもや落花生の栽培に取り組んでいます。去年、

11月に縄文人の暮らしを体験できる田原里山収穫祭を開催し、約400人が集まりました。先ほども言いましたように、組織としては非力であり、課題はあまりにも大きく立ち往生している状態ですが、コンソーシアムと繋がることで（解決の糸口が）出来てくれば良いと思います。よろしくお願いします。

笹 田： 中西さんの所属する団体はシャングリラの会です。おいしい椎茸をつくりたいという思いで頑張っていたいています。最後に、「楽しいイベント体験、健康づくり」について西川様、旭様よろしくお願いします。

「楽しいイベント体験、健康づくり」

西 川： 田原活性化対策本部会議では、色々なところに視察に行きました。私がするには手が届かないようなものばかりでした。活性化対策本部のメンバーと話していく間にもっとイベントがあったら良いなと思いました。ただ、イベントをするにも人を集めるのも大変だしチラシづくりも大変だなと思いました。今すぐできることは何かと考えて、色々な情報をネットを使って配信するために「たわら．net」を活性化対策本部のメンバーと立ち上げました。Facebookから色々な情報を配信していますので良ければご覧ください。もうすぐ立ち上げから一年になりますが色々な課題も見えてきました。これからその課題に取り組んでいきたいなと思っていますので楽しみにしててください。

旭： 民生委員の主任児童委員をしており、このグリーンホールでも子育てサロンを行っております。今日もお母さんとお子さん合わせて40名程集まりおひな祭りをお祝いしました。お祭りや発表会など田原ではたくさん開催されていますが中々周知されていないということもあり、グリーンホール田原1階にイベント情報を掲載する掲示板を作っていただきました。初めは子育てサロンや市の情報ぐらいでしたが、今は一年ぐらい経ち、高齢者の方が地域でされているふれあいサロンやいきいき百歳体操やオレンジカフェなどの案内をどんどん貼ってくださるようになりました。いつか有料化できたら良いよね！なんていいながら、みんなで使える掲示板になればいいなと思っています。

笹 田： 西川様、旭様には地域の楽しいイベントや、地域の見守りの活動など色々なことを田原地域でしていただいています。

その中で、行政としては令和元年5月には国からスマートシティ推進パートナーに採択されました。また、誰もが楽しく安心して移動できる

未来を目指すスマートモビリティチャレンジ推進協議会に参画し、将来的には自動運転等の実現を目指していきたいという思いで取り組んでおります。また、スマートシティ官民連携プラットフォームにも参画しております。それ以外には大阪スマートシティ戦略会議に市長を含め行政職員が出席したり、大阪商工会議所の MaaS¹社会実装推進フォーラムにも参加させていただいております。本市独自の取り組みといたしましては、令和元年9月21日に開催したスマートシティ推進フォーラムや、本日の「日本一前向き！」コンソーシアムの設立に至っております。

続いて、本コンソーシアムの目的と方針についてです。地域課題に対して、先端技術を活用することにより解決を図ることを目的としています。方針としては、1点目が地域の生活の質の向上。2点目は地域の資源活用。地域団体や地域資源、財産等をコンソーシアム参画団体の技術を活用しながら課題解決を進めてまいります。3点目、成功事例を応用した横展開及びチャレンジ。他市では色々な実証実験をされています。それをそのまま真似するのではなく、田原地域・四條畷の中で応用していきたいという思いがあります。そして他市では事例がないようなお困りごとについて地域、企業、大学のみなさんとチャレンジしていきたいと考えております。4点目、実証、実践から社会実装モデル構築ということで、四條畷から社会実装モデルを発信していきたいという思いでこのコンソーシアムを設立しておりますので今後ともよろしく願います。

座長： ありがとうございます。色々説明させていただきましたが、地域の方が議論してこんな地域にしていきたいという思いがあります。その中で、イノシシが出て農地を荒らすという問題がありました。それとスマートシティとどういう繋がりがあるのかと思われるかもしれませんが、イノシシが罠にかかっているかどうかを猟友会の方が定期的に確認しに行く。でもそれはセンシング機能があれば、家からタブレット等を見て確認できるはずなのに、今はそういう仕組みができていないので何度もご足労を頂いてしまっている。スマートシティと関係がなさそうな生活上で起きている課題もスマートシティと繋がっていることが沢山あると思っています。先ほど関西電力さんの見守りサービスを紹介させ

¹ Mobility as a Service：マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念のこと。

http://www.mlit.go.jp/pri/kikanshi/pdf/2018/69_1.pdf

ていただきましたが、要所に電波を飛ばせる機械が備わっているので Bluetooth の電波で通信できるので、高齢者の見守りにも横展開できるのではないかと、生活の日々の困りごととスマートシティは非常に密接だと思っています。田原のみなさまが3つ紹介していただいたこんなまちにしていきたいという未来像に技術がどれだけ応用できるかということはこのコンソーシアムで議論していきたいと思っています。

方針の4つ目の実証、実装から社会実装モデル構築が一番大事だと思っています。実証実験は全国でたくさんありますが、実装されましたというのはほとんどないです。先ほど川上の方から四條畷市の取り組みを紹介しましたが、すべて実装に繋げている取り組みです。現実的に地域にプラスになっていくことを実装していくんだという思いで企業のみなさんの強みを少しずつでもお貸しいただいてより良い四條畷・田原地域にしていきたいと思っております。

もしよろしければ本日ご参加いただいておりますみなさまからそれぞれご発言をいただけたらと思います。

YuMake 合同会社： 弊社は気象データの提供を行っておりまして天気予報などの提供や、最近では災害が多いので気候条件に対する分析にも取り組んでいますので、色々な場面で気象データを役立てることが出来ると思います。あとは奈良県内でスマート農業の取り組みを行っており、気象データと作物の生育の関係について取り組んでいるので、その辺りもお力になれるのではと思いつつながら先ほどのお話を聞いておりました。ということですので引き続きですがよろしくお願いします。

(株)グリーンファーム： グリーンファームは10年前に四條畷田原地区に生まれて、特に市役所の皆様、住民の皆様に変にお世話になりながら農業を営んでおります。高床式砂栽培農業といたしまして軽量化農業です。全国に約30数か所、グリーンファームの農地があります。各地でしているのが農業と福祉、農福連携といたしまして、障がいをお持ちの方や高齢の方でも簡単にできる農業を推進しております。昨今、「Work place 831(わーく ふれいす やさい)」の活動を通じ、仕事を求めている方や法定雇用率を達成していない企業を対象に農業を通じて日本の農業の普及、向上に努めています。食の安全プロジェクトといたしまして、グリーンファームでは農薬・肥料を極限に薄くして健康な野菜を作っております。すぐ近くの下田原にありますので、お時間ありましたら是非来てい

ただいご意見を聞きながら交流していければと思います。どうぞよろしくお願ひします。

奈良先端科学技術大学院大学： 名前のとおり奈良県生駒市にありまして、車で10分もかからない程の距離にあります。IT・情報だけではなくバイオから材料まで先端的な研究を行っています。若い教員、学生が色んなアイデアで研究を行っていますが、そのアイデアを試してみる場がないのでコンソーシアムを通じて実証実験や大層なことでなくても一度試してみようかなということがあれば是非ご協力いただければと思ひ参加しております。どうぞよろしくお願ひします。

(株)ウフル： 弊社は「テクノロジーと自由な発想で未来を創る」を経営理念として掲げておりまして、IoTやインターネット、クラウドというようなテクノロジーを使って社会課題を解決していこうということに取り組んでいます。例えば、長野県伊那市、広島県、新潟県、熊本県人吉市で地域の皆様と一緒に地域の課題を解決するために新しいアイデアを作ってテクノロジーを実装していくということに取り組ませていただいておりますので、本コンソーシアムにつきましても、皆様と一緒に地域の課題を解決するということに力を発揮できるのではないかとと思ひます。よろしくお願ひします。

NECソリューションイノベータ(株)： NECソリューションイノベータはNECグループの中のソフトウェアのエンジニアリングをかかえています。我々は全国にもう一つ拠点がありまして、地域課題に取り組んでいます。同じような言葉でも内容が違っていたり色々な話を聞いていると全然違う課題に当たったりする。我々の言葉でいうとトライアンドエラーです。我々にしかできないことは沢山あるということで、地域の方とコンソーシアムのメンバーの方と協力しながらやっていく。話がずれますが、今日NECグループ10万人が一斉テレワークを行っています。コロナの関係ではなくて、オリンピックの関係で今日一日会社に来てはいけない、全員在宅で勤務する。私は出張なので一応テレワークということで、来ておりますけれども、何が言いたいかというと実際10万人がテレワークをするとどんなことが起きるのか分からないことがたくさんあるんですね。それはネットワークの事かも知れないですし、家で仕事をしてみても良かったことやまずいことが色々見えてきます。先ほどの社会実装の話でいうと体験を

どんどんしていかないといけない。一回で良いものはつukれないので、何度も何度もトライアンドエラーしながら体験を通じてやっぱりこれは良いよねというところまでこのコンソーシアムでつくっていったらと思います。

関西電力(株)： 実は先週から万博公園で、関西電力とダイヘンさんという会社で実証実験をしていました。我々は極めて高いテクノロジーを持ってどうこうというよりは、実際ある技術を繋げて早く実装しまちの課題を解決するということに協力させていただきたいなと思っております。事業を行う上で色んな会社さんと我々進めておりますので、実証から実装へ向かう取り組みを進めていきたいなというふうに思っております。具体的にはモビリティの分野と健康の分野ですね、歩くという話が先ほどありましたがどれだけみなさんに歩いてもらうかということが本当に大事だなと思っておりますのでそういったところでご協力させていただいたらありがたいなと思っております。末永くよろしく申し上げます。

近鉄ケーブルネットワーク(株)： 田原地域に関しましてはかなり以前から我々のケーブルテレビの回線を引かせていただいております。今回コンソーシアムに入れていただくということで、我々に何ができるのかなと考えたときに、データ放送であったりとかファイバーであったりとか最近よく聞かれる5Gという話もあると思うんですけども、そこらに組み込んでいきたいなと思っております。有線でケーブル引いていくところの面倒くささというのは人が動けないということがありますが、これが5Gや無線通信を使っていくというところに行けば、人ではないモノのインターネットそういったものが融合していく世界を作れるのかなと思っております。市長も仰っていたように実装が大切ということもありますし、我々も四條畷市さん以外の地域でユースケースを作っていこうよということで、ファイバーや無線通信の部分でいかに良い物を提供させていただいて、今までのケーブルテレビから一歩先に進んだようなものをいかに具体的に展開していくかということをやっていきたいと思っております。普段からこの地域はケーブルの関係者が車に乗ってサポートに走るということをしておりますので、スマートシティを運用していく中で、住民さんの方から問い合わせが出てくると想定しています。そんなときは側にいる僕らが色んな技術を含めて地域をまるごとサポートしていったらと思

ますので、よろしく申し上げます。

ソフトバンク(株)： 我々の会長は孫正義です。彼の企業理念として「情報革命で人々を幸せに」という理念がございます。先ほどご説明いただきました「先端技術を活用することで課題解決を図る」というところにまさに合致する理念かなと思います。先ほど市長のイノシシの話の中でセンシングを活用して解決できるとありましたけれども、まさに IoT 罌というソリューションがございますのでぜひそのあたりご協力させていただけたらと思います。東京の汐留に本社がありますが、今年7月に竹芝に本社の移転が決まっております。竹芝は国家戦略特区に指定されていまして、最先端の技術を使ったスマートビルというところに移転することになっております。そういった技術を少しでも、四條畷の活性化のために役立てればと思っております。本社移転のあかつきには、ぜひ視察にお越しいただければと思っております。何かお力になりたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

医療法人和幸会： 和幸会グループと申しますと教育・医療・福祉の3点で活動しております。教育に関しましては、医療系の学生を育てていくということで理学療法学科、作業療法学科、看護学科、そして日本語科を設けておりまして、田原地域に400人ほどの若者が勉強しに来ています。生駒にも阪奈中央看護専門学校がございますし、奈良リハビリテーション専門学校もございます。

医療については、医療法人和幸会のもとで阪奈中央病院、それから四條畷田原に阪奈サナトリウム、そして老人保健施設のパークヒルズ田原苑が医療法人和幸会のグループになっております。社会福祉法人特別養護老人ホーム田原荘もございますので、このように医療・福祉・教育の形で活動しています。パークヒルズ田原苑は地域包括支援センターがございまして、地域の高齢者の見守り活動、研修をさせていただいております。田原苑にはふれあい広場があり、毎週40名程集まってこられて「いきいき百歳体操」をしています。重りをつけて手足をゆっくり動かそうという活動をしています。それについては、理学療法士が3か月ごとに成果を測り、効果が上がっていることを納得していただけます。

また、介護予防でトレーニングジムのような設備を整えておりまして、杖を突き始めた方や腰の曲がり始めた方がトレーニングに来られて、介護保険が要らなくなる状況を目指して、理学療法士や健康福祉士が日々指導しています。この地域の要介護認定率を下げようというのが私たち

の目的です。いつまでも健康長寿でいられるまちづくりを考えております。実は田原地域は他の四條畷市内に比べて要介護認定率がすごく低いのです。もっと下げていきたいなと思っておりますので皆さんのお力を貸していただければと思います。補足ですが、やはり医療法人ですので人が人という対応になりますが、それがどう面になるのかなと考えながらなんですけども、リハビリのロボットを使ってリハビリをすとか、介護に負担がかからないようにリフトを使うとか、そういう工夫もしておりますので、この地域で長く生活できるような環境づくりに何かご協力できればと考えています。よろしくをお願いします。

座長： 各企業のみなさんありがとうございました。オブザーバーのみなさまにもご意見頂こうかなと思ったんですが、時間の関係もございますので代表して大阪府さんの方から頂いてもよろしいでしょうか。

大阪府スマートシティ戦略準備室： 本日は「日本一前向き！」コンソーシアム設立おめでとうございます。私どものスマートシティ戦略準備室は昨年7月に立ち上がったばかりですが、何をしているかと言いますと、万博がありますので未来に向けたことをやっているのかなと思われる節もあるのかなと思いますが、それはそれで大切なこととして取り組んでいますが、我々のスマートシティ戦略準備室はもう少し身近なところで、今何が課題でどんなことに先端技術、予算を使って何ができるかということを考えるよう知事から指示を受けまして取り組んでいます。半年余り議論してきて、大事なキーワードは地域、地域を支えている住民さんが盛り上がってきて、そこに企業等が集まってくる。

そういう仕組みが出来ていくことが、大阪全体として必要なことかなと、戦略の思想として掲げていきたいなと思っております。それが今日ここにあるやないかと、実際、第一回の会議に市長さんに来ていただいて説明いただいたんですけども、我々が目指すべきもんがここにあるんやなということで、住民さん企業の皆さん、大学の皆さんのネットワークを生かした取り組みを我々も参考にしていきたいなと思っておりますし、非常に期待しているところでございます。引き続きサポートさせていただけたらと思います。是非よろしくをお願いします。本日はおめでとうございます。

座 長： ありがとうございます。昨年9月にもフォーラムを開催し、多くの方にご参加いただきました。今回は、コンソーシアムという形で実際に前に進んでいく一歩とさせていただけたらなと思います。皆様もお気づきのとおり行政も手探りです。新しいことに取り組むときは決められた道筋はなく、手探りで暗闇の中を遠くにぼんやり見えている光へ向かいながら、みんなで手を繋ぎながら進めていきたいという思いでさせて頂いております。どうか企業の皆様方にお示し頂いたご助言やすでに取り組まれていることを四條畷市の強みや弱みを解消していくことに繋げさせていただきたいと思います。以降も、定期的に集まり継続的に皆様と一緒に田原地域を良くしていけたらと思います。改めて本日はありがとうございました。